

# 死んでも差別が・・・

私の解放運動の仲間であり、先輩でもあるSIさんが、本年5月に

なくなりました。温厚ですが、部落差別解消のために力を尽くした方でした。村を守り、良くしていきたいといつも語っていた人でした。この方のことを書くつもりではありませんが、「差別」が、死んでからも被差別部落の人たちを苦しめてきたんだということを思い出しましたので、少し触れておきたいと思います。ご一読ください。

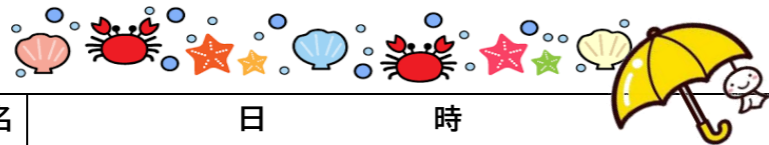
私たちは死んだらお墓に入り供養されますが、1978年頃に長野県のA村の被差別部落で差別的な法名(戒名)が刻まれた墓石が発見されました。そこには、「阿桃程蕃童女座」と書かれていました。江戸時代に亡くなった女兒(7歳)の墓石に刻まれたこの「蕃」は、家畜を意味し、人として扱われてないことを示すものでした。さらにこのほかにも数十の人々の墓石も見つかりました。他にも「革」「僕」「屠士(女)」などがあり、その後の調査では全国に存在することが明らかになっています。死してなお差別を受けるといふ悲しみと怒りは、私の頭から消えることはありませんでした。このことは、1997年7月に発行された基幹運動推進のために一定の方向を打ち出したブックレットで、次のように書かれています。(抜粋)

差別戒名とは、一口に言えば死者の生前の社会的身分、家柄、職業などを意図的に戒名に組み入れたものである。それをしたのが、人間外の人間として、釈尊(釈迦如来、釈迦、釈迦尊ともいう)の教えを説き、人間の平等を説く僧侶である。差別がいかに深刻なものであるかを物語る例証であるとともに、宗教(仏教)の欺瞞性を表現するものである。(中略)さて、差別戒名とは、普通一般的には、戒名として使われない文字が被差別民衆に限ってつけられた事実をいう。そのつけ方は実に巧妙で、**蕃の隠し字(玄・田)、栴陀羅(人間外の人間)、異体文字、画抜き、創字、あて字**などが、目じるしとしてつけられ、特に被差別部落民については「革」「僕」「屠」などと、生前の職業を表したと思われる差別戒名が数多く刻まれていた。

特に長野県では差別戒名の種類が多く、「蕃」「賤」「ト」「草」「朴」「僕」「非」「革」「鞍」「似」「皮」「栴陀羅」「婢」「隷」などの文字が使われ、なかには「穢」という文字の入った墓石もあり、「庭男」と書かれた戒名もあった。(※注:ちなみに、浄土真宗では「戒名」ではなく「法名」といいます。)

清め塩をまくのは根拠がないけれど、みんなが今までしてきたからするんだという意識と同じです。これは、人権教育・「同和」教育は、小学校から受けてきていて、啓発も進んで部落差別はおかしいということはわかっているけれど、自分の息子や娘の結婚のときは相手が被差別部落の出身かどうかの身元調査をします、という意識と同じだと思ったんです。今は、おかしいと思うことは、おかしいと言っていくことが大事だと思っています。(文:森本)

## 7月のお知らせ



講座名	日時
しあわせボディ	毎週月曜日 13:30~15:00
自力整体	毎週金曜日 13:30~15:00
将棋教室	毎週水曜日 13:00~16:30
健康教室	7月2日(木) 9:30~11:30
料理教室	7月28日(火) 9:30~
ハンドメイド	7月13日・14日(月・火) 10:00~16:30



善入寺島のひまわり